

しながら、症状のある感染者が増えれば増えるほど、この見えない感染者と感染経路も増えます。これを防止するためにはできるだけ感染者を増やさないようにする以外に方法は無く、このために、県外への移動の自粛とともに、自分も感染しているかもしれないと考えて、人との接触を減らすことが求められているわけ

です。日本国政府は、特に地方での感染者を増やさないように、地方の医療体制を守るために全国に緊急事態宣言を出しましたが、最後に三重県を守るのは三重県人だけです。感染者を増やさないようにみんなで協力していくことが求められていると思います。

(臨床研究部長 谷口 清州)

## 三重病院にようこそ



三重病院チームに皆さんを迎えて、とてもうれしく思います。

三重病院は、「みんなで仲良く」をたいせつにしながら、患者さんのために頑張るチームです。皆さんひとりひとりの力を活かしながら、よい医療を目指していきます。

どうかよろしくをお願いします。(院長 藤澤 隆夫)

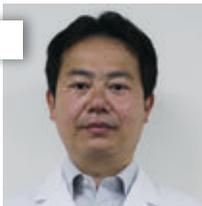
### 5つのキーワード



- **患者さんのために**  
全ては**患者さんのために**、から始まります
- **新しいこと**  
Innovationの心は無限の発展につながります
- **楽しく**  
つらそうにみえても、楽しいことは必ずある
- **仲良く**  
チームワークがあつての三重病院
- **健全に！**  
よい医療、よい研究もすべては土台(=経営)

## 異動のあいさつ (2020年4月1日付)

### ●脳神経内科 高島 慎吾 先生



4月1日より三重病院脳神経内科で勤務しております、高島慎吾と申します。

県立総合医療センターや志摩病院、三重大学などを経て、こちらに赴任する直近では10年間、鈴鹿中央病院で主に脳卒中を中心とした神経疾患急性期の診断、治療に当たっておりました。

筋委縮性側索硬化症やパーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患の患者様も多く診療させて頂きましたが、急性期病院ということもあり、主には確定診断をつけるための検査を行ったり、外来通院が可能な状態の患者様を担当しておりました。

まだ赴任して日は浅いですが、入院患者様を担当させて頂く中で、急性期診療とはまた異なる診療技術、知識が必要であることを日々痛感しており、諸先生方やコメディカルの方々に様々なことを御教示頂く毎日を送っています。

少しでも早く、多くの事を患者様に還元できるよう努力して参りますので、今後とも宜しく願い申し上げます。

### ●麻酔科 田川 剛志 先生



麻酔科の田川剛志です。三重病院には前任で現在は関西医大診療教授の大井由美子先生の御依頼で2016年1月から非常勤で来ていましたが、麻酔科医としてうだつの上からない日々を送っていた昨年、高校と大学の先輩でもある藤澤院長に声をかけていただき、この度常勤に昇格いたしました。

三重病院には上記の非常勤時代以外にも初期研修医の時の小児科研修で2~3か月お世話になりました。当時研修医には机がなくトイレで一息入れていたのも今となってはいい思い出です。また、10年以上前にも約1年間非常勤として働かせていただいたことがあり、三重病院は私にとって縁が深い病院です。

そんな大昔のことにもかかわらず私のことを覚えていてくれていて声を掛けてくれるスタッフの方もおり、大変うれしい限りです。基本手術場にひきこもって出てきませんが、どこかで見かけてもそっとしておいてください(笑)。よろしくをお願いします。

